

経営理念	○学校経営理念【主体的に学びに向き合い、仲間を尊重し、協働して新しい時代をたくましく生き抜く力を持った生徒の育成】 ○学校教育目標【みずから学び 共に未来を創りたくましく生きる生徒の育成】 ○学校経営方針 [知]○学び続け学び合う教員を育成する組織の充実を図り、生徒の学びを繋ぐ教科指導力の向上を目指す。 ○ICT等を利活用し、生徒の学びを支える協働学習や個別指導を確立し、生徒の学力を高める授業づくりを進める。 [徳]○道德教育、キャリア教育、総合的な学習の時間等をリンクさせ、生徒の自己実現に向け生徒の豊かな心を育てる。 ○全教員が生徒に関わり担任は保護者と繋がり、個や集団に応じた生徒理解、生徒支援を粘り強く実践する。 [体]○自らの健康管理や生活習慣に留意する生徒を育て、体育授業を核として生徒の運動能力・体力の維持、向上を促す。 [横断]○子どもの学びと成長を育むコミュニティスクール導入の準備を進め、学校運営協議会との連携・協働を学校経営に活かす。 ○生徒も教員も南海トラフ地震、津波、自然災害に対し正しく知り恐れる認識を高め安全教育・安全管理に努める。 ○家庭及び SC,SSW と連携し校内支援体制を軸とした丁寧な支援、対応を行い、新たな不登校生徒を出さない学校づくりを目指す。 ○教職員の勤務と家庭生活のバランスに配慮した働き方改革の実現に向け、定時退勤日等を設定し、業務の効率化 と行事等の見直し・削減及び教育活動の充実を推進する。 ○主体的、対話的で深い学びの実現を目指し、ICTを利活用して効率的なグループワークを組み入れた授業展開を構築する。
------	--

項目	中長期経営目標	短期経営目標	短期経営目標の達成状況	自己評価	改善方策	関係者評価講評	関係者評価
知	書く力、表現する力の育成	ア. 高知新聞「小社会」の活用(言語活動の充実:初見の文章の要旨を捉える、語彙を増やす) イ. 集中した朝読書を継続する。 ウ. これ単の学習に全校で取り組む。 エ. 各授業での振り返りの実施を徹底する。 オ. 授業スタンダードに基づいた授業づくり、授業改善を充実させる。 カ. クロームブックの効果的な活用により、生徒の学びを支え、表現する力を育成する。東部教志塾を活用し(2回)全教員で研修を深め取り組む。	ア. 「小社会」の他に、学年に応じて数学の復習や、テスト対策学習等ができている。 イ. 時間前から落ち着いて取り組みができている学年もあり、時間いっぱい静かに読書ができています。 ウ. ～オ. 計画通り実施できている。 カ. 東部教志塾(2回)を活用し研修を深めた。ICT の効果的な活用の研究に全教科で取り組み日常的な活用が当たり前になった。 ※各学力調査の結果は、目標としている数値をほぼ達成することができた。	A	○研究主題に沿って各学年の課題に応じた取組の重点事項や視点を明確にし、共通理解を図ったうえで、授業改善に向けて取り組んできた成果が表れていると思われるので継続して取り組んでいく。 ○朝の読書や帰りの学習(「小社会」の活用やこれ単)を継続する。 ○授業規律が確立し生徒が落ち着いて学習できる体制ができていますので、今後も維持していく。 ○引き続き ICT の効果的な活用方法を研究し実践していく。	・掲げている目標値が達成できていることがよいと思う。落ち着いて学習できる環境が整っており、学力向上につながっていることが数値にも表れている。落ち着いて学習に取り組む生徒の姿も多く見られる。 ・安田小・中学校でアクティブラーニングの視点に立った授業改善に取り組んできたが、今後もグループで対話する場面を仕組み、教科学習での深い学びと社会とをつなぐ授業を目指してほしい。 ・読書の重要性を感じるため取組を継続してほしい。	A
	家庭学習の定着	ア. 授業と連動した家庭学習を進め、授業の理解を深める仕組みを構築したり、家庭学習の実施によるメリットを体感させたりする。	ア. 家庭学習時間一日平均(3学期調べ) 1年73分(目標70分)、2年50分(目標80分)、3年117分(目標90)、宿題はほぼ全員が提出できる状況である。	B	○家庭学習の内容を基に英語会話を行ったり、分からない問題に付箋を貼ることで、教師からの添削につなげたりしている。漢字学習と書き取りテスト継続により、漢字の力の向上につながっており、それぞれ学力の定着につながっている。引き続き意欲をもって家庭学習に取り組めるように工夫していく。	・生徒が落ち着いて学習できる環境にあることや、家庭学習と授業での学びにつながりがある取組(国語、英語)ができていてよい。また、ほぼ全員が家庭学習に取り組めていることは日々の成果である。 ・2年生は学校の休み時間に学習をしているので家庭学習時間が目標時間に到達していないのではないかな。 ・宿題以外の学習もできるような指導をお願いしたい。	A
	安田町授業力向上シートの活用	ア. 項目3「見方・考え方を働かせながら、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えることができる」を重点に置き、見方・考え方を働かせる活動を授業に組み入れる。(授業力向上シートによる評価)	ア. 参観者・授業者による評価3. 3、生徒評価3. 8(2学期末)各教科において、根拠を示して自分の考えを書いたり発表したりすること、複数の資料をもとに判断すること、既習事項と関連付けて考えることなどに取り組む、学力調査の結果などからも成果がみられる。	A	○各学力調査の分析を継続し、課題を確認しながら学力向上に取り組んでいく。 ○全教科で取り組んでいく重点事項や目指す生徒の姿を共有する。	・根拠を示して自分の考えを書いたり発表したりすることや、各教科の見方考え方を働かせながら思考力、判断力、表現力を高める授業づくりに学校全体で取り組んでいることが成果として表れている。	A
	多様性に応じた支援	ア. 講師を招聘(高知大是永かな子教授)し、特別支援教育の視点に立った授業づくりを進める。	ア. 年間を通じて研修を深め特別支援教育の視点に立った授業実践に努めた。学期ごとに授業参観による助言をいただき、実践の検証を行いながら継続的な支援を行うことができた。	B	○支援方法の助言→支援の実践→検証→支援の継続と変更、新たな支援検討というサイクルを行いながら次年度も対応していく。	・年間を通して特別支援教育の研修を行う中で、助言いただいたことを日々の授業改善に生かし、多様性に応じた色々な視点からの支援をしていることがよい。 ・講師招聘研修での助言をもとに組織で取り組んだ結果、生徒や教職員の変容を具体的な場面と姿で説明いただけたら、取組の様子がよりわかりやすいので今後お願いしたい。	B
	道德教育の推進	ア. 道德意識調査「全設問」の肯定回答(80%以上)をめざす。 イ. 生徒が主題のねらいを自分事として考えられるように生徒の実態にあった授業展開を考え、多面的、多角的な見方ができるように「発問」や「問い返し」の工夫に取り組む。 ウ. 生徒への肯定的評価を積極的に行い活躍する場面を多く設定する。 エ. 町ほめほめ週間や各学年で「家庭で取り組む高知の道德」を活用する。	ア. <u>資料1参照</u> 結果および〈分析・考察〉、〈改善〉を確認してください。 イ. 道德チェックシート授業者・参観者用項目4「自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深められる学習指導過程を構成している。」肯定評価87.5% ウ. 道德チェックシート生徒用項目2「先生は自分の意見を肯定的に受け止めてくれた」肯定評価 100% エ. ほめほめ習慣や道德通信を発行し家庭での活用を啓発しているが、道德意識調査項目3の評価は低くい。	B	○これまでの取り組みにより、授業に関心をもって臨み、自分の考えを伝えたり他の人の考えを聞いたりする時間であると捉える生徒が増えた。教師も生徒の意見を共感的に受け止める意識を持って授業が実施できるようになっている。また、社会貢献に関わる内容では総合的な学習や特別活動等の取り組みがプラス面で影響していると考えられる。これらの成果がみられるので今後も道德の授業を改善しながら取り組んでいく。 ○道德調査調査項目3の肯定評価は低いので、呼びかけや学校全体での取り組みを継続していく。	・地道な啓発を継続していることや、年間を通した計画を実施できていることがよい。着実な取組が生徒の自己認識能力の向上につながっている。 ・教科担任だけではなく全教員で共通認識のもと道德教育を行っていることがわかる。今後は、地域行事への参加や体験を生かしてさらなる道德教育の充実を図ってほしい。 ・人として生きていく上で大事な授業であると思うので、社会に出る前の段階で善悪を身に付けるよう学校全体で指導をお願いしたい。	B

	いじめ防止、集団づくり	ア. 生徒間の上下関係をつくらない、一人ぼっちをつくらない学校を創る。(年間) イ. QUの実施と分析を共有する。 ウ. 人権に関する校内研修を実施する(11の人権課題に関して生徒の現状に応じて、適宜、個別の人権課題の校内研修を実施する)。	ア. 企画委員会・職員会において生徒理解を行い情報共有しながら指導・支援にあたっている。 イ. 学校生活アンケート、Q-U 結果を分析し学校・学年で対応できた。道徳意識調査「いじめはどんなことがあってもしけないことだと思う」肯定的評価 100%。 ウ. 夏休みに本校の田野 SC を講師に「対人的位置と距離」と「ゲーム依存の理解の対応」についての研修を行った。	B	○どの学年も概ね良好な学級経営、学級集団づくりができています。今後も企画委員会や職員会をはじめ、日常的な情報共有と対応を継続していく。 ○アンケートや Q-U 結果分析・活用しながら継続的な指導を行っていく。	・教職員間で情報共有を行いながら生徒理解に努め、支援をしていることがわかる。 ・生徒の現状に応じた人権教育、校内研修、各種アンケート等の活用が計画的に取り組めたことで、生徒のいじめに対する意識も高められている。	A
体	健康・保健教育の推進	ア. 体調の自己管理ができる生徒(平日のメディアの使用 2 時間以内65%以上、朝食摂取率90%以上、睡眠時間 7 時間以上が80%以上)をめざす。	ア. 平日のメディア2時間以内達成率 79%、朝食摂取率 90%、睡眠7時間以上 93%(3学期調べ)	A	○ほとんどの生徒が、自己管理できており、生活や学習に大きな乱れが見られる生徒はいない。しかし課題の見られる生徒は固定化しており、継続的な指導が必要である。	・ほとんどの生徒が自己管理できており、大幅に生活や学習に乱れが見られる生徒がいないのは、家庭での声掛けもあるのではないだろうか。今後も家庭との連携を図りながら取組をすすめていただきたい。	A
	体力・運動能力の向上	ア. 体力の総合評価 C 以上65%以上をめざす。 イ. 県体力・運動能力、生活実態調査質問8「運動することはすきですか」の肯定評価90%以上をめざす。	ア. 体力の総合評価 C 以上の生徒84%。 イ. 県体力・運動能力、生活実態調査質問8「運動することはすきですか」の肯定評価90%	A	○運動の得意不得意に限らず、大半の生徒が体育の授業や放課後ランニングに意欲的に取り組んでいる。また、体育系部活動に加入する生徒が多いことも体力の向上の要因であると思われる。引き続き運動好きの生徒を育てるとともに、体力の評価 E の生徒の引き上げを目指す。	・体力は活動の源であり、健康の維持増進、学習意欲や気力にもつながるため、今後も取組を継続してほしい。運動することが好きな生徒が多い姿からも、体育の授業や放課後ランニング等の学校全体での取組が成果として表れていることが伝わってくる。 ・放課後ランニングに意欲的に取り組んでいるのがよいので、今後も継続してほしい。	A
	適切な部活動運営・指導	ア. 「安田中学校部活動に係る活動方針」を踏まえた月計画表を作成し、効率的・効果的な部活動経営を行う。 イ. 週あたり平日 1 日、休日 1 日の休養日をとる。	ア. 計画表を作成し、効率的・効果的な部活動を行うことができた。 イ. 週あたり平日 1 日、休日 1 日の休養日を取りながら部活を行った。	A	○示された方針に従って部活動を行っており、ほとんどの生徒が意欲的に参加している。本年度は卓球女子団体が県体出場、野球部が県新人大会3位など成果も見られた。引き続き休養等も取りながら適正な部活動運営を行っていく。	・適度な休養で効率的な練習ができたことが試合で生かされ、結果につながったと思う。 ・示された方針のもと計画に沿って、効率的・効果的に無理のない運営できているのがよい。部活動の地域指導への移行も検討してほしい。	A
横断	学校・家庭・地域との連携	ア. 町役場・教育委員会をはじめ、各団体や家庭・地域と連携協力した活動を実施する。	ア.町役場から講師を招いての学習(3回)、町役場、森林公社、企業等と協力した環境学習や清掃ボランティアが実施できた。体育大会、リサイクル、日曜参観の保護者参加率が 80%以上を達成。	B	○総合的な学習に関わって町役場をはじめ地域の事業所等に協力いただく一方で、町企画の事業への協力や清掃ボランティアに参加することができた。引き続き結びつきを深めながら協力しあえるよう取り組んでいく。	・今後は地域の行事も行うので参加をお願いしたい。 ・地域行事への参加や体験を生かして、結びつきを深めながらさらなる充実を図ってほしい。	B
	安全教育・安全管理の推進	ア. 生徒が自ら命を守るために必要な知識や技能を身につけ防災意識を高めることのできる学習や訓練が実施する。 イ. 学校安全計画や危機管理マニュアルの内容を訓練等を通して検証・改善する。	ア.毎学期の避難訓練の実施と振り返り、起震車体験や中芸消防署に出向いての防災体験学習、各学年での学習等により、生徒アンケート「学校は、地震や災害等から身を守る安全についての学習や訓練を行うなど安全・安心な学校づくりを進めている」肯定的評価 97% イ.避難訓練実施後の反省や振り返り、研修等で得た情報を参考に見直しを行った。	A	○計画に沿って毎学期避難訓練を行い、振り返りを行う中で課題や改善点を考えさせることができた。中芸消防へ出向いての学習は、効果的であるので来年度以降も継続していきたい。	・消防署員との学習や各種防災学習により、生徒が真剣に訓練に取り組めていることがよくわかった。今後も取組を継続していただきたい。	A
	不登校傾向生徒への総合的な対応	ア. SC・SSWが参加する校内支援会を開催する。 イ. 不登校担当教員や学年団を中心とした早期の情報共有と対応を行う。 ウ. 新たな不登校生徒・長期欠席傾向生徒を出さない学級経営、集団づくり、生徒支援、指導を行う。	ア. 校内支援会は定期的に開催できたが、日程の都合上 SC・SSW 参加はできなかった。 イ. 校内支援会・職員会、職員朝礼等で常に情報共有を行うことができた。 ウ. 本年度新たな不登校生徒はなかった	B	○SC、SSW の来校時には情報共有を行いなっている。前年度からの不登校については、改善に至っていないが、進路意識や家庭との連携により出席日数が増えている。 ○思春期特有の不安を抱える生徒への支援を SC,SSW 等の助言を参考に継続していく。	・思春期の難しい時期でもあるが、全校生徒が生き生きと登校できるように寄り添いながら取組をすすめていただきたい。 ・SC,SSW 等外部専門家と連携をし、教職員で情報共有しながら対応できていることがよい。	B
	働き方改革の推進	ア. 時間外勤務＝月 45 時間以内(100%)をめざす。 イ. 校務支援システムを活用し業務の軽減を図る。 ウ. 定時退校日、学校閉校日を設定する。 エ. 部活動に係る活動方針、休養日及び活動時間を厳守する。	ア. 1 月末までの月平均 45 時間以内達成率81%。 イ. 回覧文書や伝達事項の掲示、職員の出張等の把握等に活用した。 ウ. 定時退校日は水曜日を基本に、学校閉校日を夏休みに設定した。 エ. 方針に沿って行うことができた。	B	○働き方改革の意識は定着しつつあり、メリハリをつけて業務に当たっている。時期や担当業務の内容により月時間外45時間を超えてしまうケースが出てしまうが、教員間の声かけ定時退校日の実施等を継続し、効率化を進めていく。	・日々の業務の中で時間を有効的に活用しながら、働き方改革の推進に向けて取組をすすめていただきたい。	B
	ICTを活用した新しい学びの構築	ア. ICTを効果的に活用した授業実践を研究していく。 イ. ICT機器を日ごろから積極的に使用し、個々の能力を上げる。	ア. 研究主題に沿って全教科で ICT の効果的な活用に取り組んだ。 イ. 教員間で活用法や操作法等の交流も行い個々の能力も向上した。	A	各教科とも日常的に ICT を活用している状況である。より効果的な活用法をめざし、活用法を共有しながら実践していきたい。	・人工知能が進化して、社会が急速に変化していることを感じている。これからの未来を創る子どもたちが、社会や人生を歩んでいく上で、自分で考え生きていく力を身に付けることが重要である。中学校教育では、その基礎となる資質や能力を身に付けさせる役割を担っており、社会の諸課題に対応できる人材の育成に向けてさらなる取組をお願いしたい。	A